



教育事情最前線

大学受験を控えるお子さんを持つご家庭にとって、心配なのは成績以上に学費の工面かもしれません。保護者の方々の学生時代に比べれば、私立大学は言うまでもなく国公立大学の学費も相当高くなっています。そして、本来はどんな家庭にも平等に進学機会が開かれているはずの国公立大学にも、経済格差が生じているというのです。

小林雅之・東京大学教授らの研究グループは、2012（平成24）年3月に高校を卒業した子どもを持つ保護者を対象にインターネット調査を行い、06（同18）年3月に行った調査と比べてみました。所得階層別に国公立大学への進学率を見ると、06（同18）年の時点では400万円以下の所得層が9.1%、1,000万円以上の所得層が11.9%とその差はわずかで、どんな経済状態の家庭からも同じように国公立大学に進学できていました。しかし2012（平成24）年調査になると、所得が上がるほど進学率も高くなる傾向がくっきりと表れ、400万円以下の所得層が7.4%、1,050万円以上の所得層が20.4%と、その差は約3倍にも開いています。

二つの調査の間にはリーマンショック（2008<平成20>年9月）があり、これをきっかけに日本でも所得格差が深刻化しました。その影響が、ついに国公立大学の「進学格差」という形で及んだものと見られます。

中学3年生の時の成績別に進学率を見てみると、より深刻さが際立ちます。子どもの成績が「上」だったと答えた人のうち、2006（平成18）年の時点では400万円以下の所得層でも67.0%と3人に2人が国公立大学に進学しており、1,000万円以上の所得層（72.9%）とそれほど大きな差はありませんでした。それが2012（平成24）年になると、400万円以下の所得層の国公立大学進学率は53.3%と2人に1人に落ち込み、1,050万円以上の所得層（76.9%）との格差は1.4倍に開きました。今回の調査からは、子どもが就職した人の中にも「経済的に進学が難しかった」「給付奨学金がもらえれば進学してほしかった」という保護者が5万～6万人いると推計されています。小林教授は、子どもが成績優秀なら経済的に苦しくても何とかして進学させようとする「無理する家計」が日本の大学進学を支えていたのに、その無理が今や続かなくなっている、と心配しています。（以下略）【出典：Benesse教育情報サイト2013/7/4】



スタッフの目

左記のベネッセの記事によると、学力はあっても進学を断念する子どもたちが増えていることがわかります。これは以前、文部科学省が調査して出した傾向、「経済格差が学力格差につながっていることがうかがえる」という内容とは少し異なるものです。

私たちヴァパウスは2009年の発足当初以来、経済格差が直接学力格差につながることに疑問を持っていました。そしてこれまでの学習支援活動で経済格差と学力は比例しないことを確信し、むしろベネッセの記事のように学力はあっても進学できない現状を現場で感じてきました。

私たちヴァパウスは大学進学がすべてだとは考えていません。しかし高校を卒業し、成人になる過程で自らの意思決定と自己責任のもとに様々なことを学ぶことができる大学での経験は非常に重要だと思っています。その様な能力と意欲のある子どもたちが、その才能を磨き、社会で活躍する土壌を培い、よりよい人生を築くためのチャンスを家庭の経済状況という（子どもにとっては）不可抗力で断念せざるを得ないのは残念なことです。

近年、学習支援事業の一環として私たちは進学後の学費についてもいろいろと相談を受けることが増えてきました。私たちも奨学金の情報などできる限りのアドバイスをさせていただいています。しかしながらこうした奨学金も焼け石に水といった感があるのが正直なところではあります。

そこで提言したいのが、欧米の大学です。年間学費を支払わなければならない日本の大学に比べて、欧米の大学のほとんど（フィンランドなど無料のところを除く）は単位制で、各学期の履修単位を自分で自由に設定でき、その単位に合わせて学費を払うという形になっています。学生たちは自分の支払える範囲内で授業を履修し、卒業条件である履修単位を満たしたら卒業というシステムになっています。日本もこうしたシステムを導入することで保護者の負担を軽減することができ、また学生たちが自ら予算を考え、無理なく計画的に大学で学ぶことのできる環境ができるのではないかと思います。

M-study voice

各機関との連携を模索
～不登校生徒の学習支援～

学習支援ヴァパウスの運営するMスタディ（通称：Mスタ）は、家庭の経済状況に関わらず、学習できる環境を提供し、子どもたちが自分自身と真剣に向き合い、自分の進む道のために試行錯誤することを応援しています。現在、小学生3名、中学生13名、高校生9名が在籍しています。そのうち、不登校生徒は3名です。また、平成24年度より広島県の青少年活動の一環として

行われている、「子ども・若者育成支援協議会」の一員として参加し、ひきこもりや不登校により社会生活を営めていない若者の支援協力しています。

私たちヴァパウスの協力内容としては、不登校生徒を対象とした学習支援・進路支援ですが、これを実現するにはまず該当する生徒たちを発見し、私たちのようなサービスがあるということを宣伝する必要があります。そのためにも学校やその他の機関と情報交換をしながら活動する必要があります。しかしながら、実際には個人情報の守秘義務など制約が多く、また、規模の大きい組織ではないなどの理由でそうした連携がとれていないのが現状です。

今後は一般企業などへの広報など、フィールドをひろげ、ヴァパウスの存在と活動の理解をもっと多くの方にさせていただきたいと考えております。

また、不登校生徒の学習支援は家庭訪問からはじまり、段階を経て当教室での学習を促す流れとなっており、学習支援については無料でおこなっています。生徒1人当たりにかかる実質費用（月額2万円ほど）は寄付金などを当てて活動していますがこちらも現在不足気味です。

未来を担う青少年の基礎となる学力の支援の必要性を訴え、各機関や企業と連携をとること、こうした活動を継続的に行なうことのできる支援の仕組みを確立することが急がれます。

会員・サポーター 寄付募集

- 【個人正会員】
年会費 5,000円
- 【団体正会員】
年会費 10,000円
- 【支援会員】
一口 5,000円または物品
- ★特典・入会方法は右にある
電話・Fax・eメールでお問い合わせください。

フェイスブックで日々の活動を報告中！

学習支援ヴァパウスは、日々の活動をブログだけでなく、フェイスブックでも公開しています。フェイスブックの検索欄で「学習支援ヴァパウス」と入力してクリックしてみてくださいね。（もちろん「いいね！」もよろしく願います）

《発行》

福山市多治米町 6-6-11
Tel&Fax: 084-917-5014
e-mail:webmaster@vapaus.info



福山市	福山市	大和市	物品寄付	福山市	金銭寄付
福山市	福山市	川崎市	川崎市	福山市	福山市
匿名さん	匿名さん	井さん	井さん	山下さん	山下さん
				栗田美さん	栗田美さん
				あしながおじさん	あしながおじさん

ご寄りがついでにいます